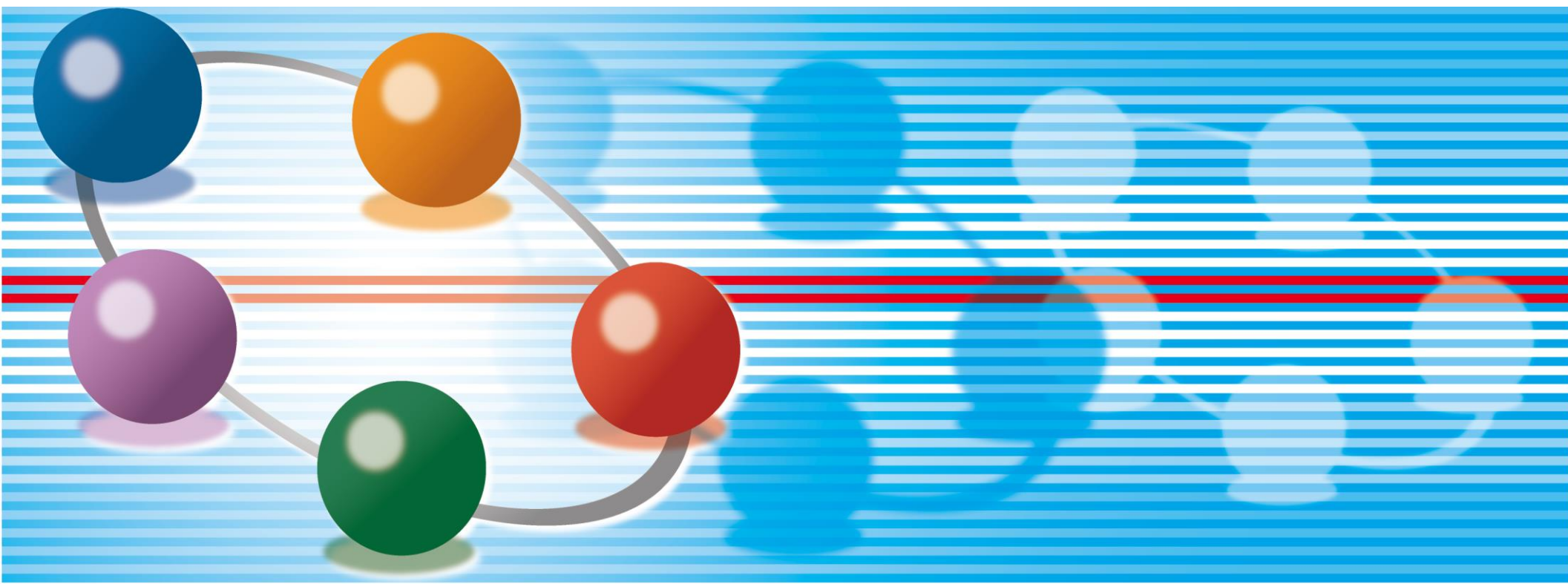




株式会社カワタ
2019年3月期決算説明会 質疑応答Q & A
2019年6月7日

(証券コード 6292 東証第1部)



決算説明会（2019.6.7）質疑応答Q & A

Q：今期の計画の前提の確認で、用途別に見たときに売上が増えるようなものはあるか。同じようなものか。

A：大きく射出成形と押出成形でいえば、射出成形のところでは、日用品など汎用品といわれるものは、国内は更新需要も含め堅調に推移している。中国の電池関連、正極材とセパレータフィルムは第一回目の大きな投資が終わり、今年度は調整局面と見ている。引き合いはあるが、昨年、一昨年ほどの過熱した状況ではない。

Q：セパレータフィルムは押出成形関連か

A：そうである。

Q：プラスチック規制の動きについて、業績面では軽微と書かれているが、シンプルにこの理解でいいのか。素材への取組強化で実用化できているものがあるか。射出成形機メーカーだとバイオプラに対応していると聞いているが、貴社ではどうか。

A：業績への影響でいえば、ストローとレジ袋について規制がかかった場合該当するが、業績への影響は軽微である。これ以外のプラスチック製品にも規制が拡大した場合、影響がでる可能性があるが、現在の議論の中では影響はないと考える。プラスチック成形の分野では、バイオプラへの対応がある。バイオプラについては以前から存在しているが、機能上の問題、価格の問題があり、材料の改良が重ねられている。（続く）

決算説明会におけるQ&A(質疑応答)

(続き) 当社の製品では現状既存製品で対応できる。今後バイオプラは耐熱性、強度の向上等高機能化が進む中で、添加剤などの配合技術が必要と考えるが、現時点では特殊な対応はないと考える。

Q：EVの関わり方について、正極材とセパレータフィルムで関わっているということであるが、単体の用途別の売上だとどこに区分されているのか。

A：セパレータフィルムは押出成形で行い構成別ではフィルムシートとなる。正極材はその他に区分している。

Q：今後増加が期待できる業界はあるか。国内で設備投資の動きがありそうであるが、そうした顧客の動きなどはあるか。

A：セパレータフィルムは日本のメーカーは世界シェアが高い。中国メーカーも増加傾向である。日本、中国においてセパレータフィルムは増産に向けて動いていくと考える。

決算説明会におけるQ&A(質疑応答)

Q：貴社以外の会社で日本においてシステム構築に特色を持っている会社はどこか。

A：非上場の会社で、われわれと競合する成形機周辺機器メーカーは複数社あるが、システム構築という点では日本国内では当社ともう1社である。その会社はミキサーを製造販売しておらず、そこは当社の強みである。その他、液晶のフィルムやカメラのレンズなど、クリーン、精密さが要求される最終製品向けの顧客については当社の強みであり、他社と差別化できている。様々なお客様の現場を経験してきた蓄積は強みになっている。

Q：特に情報を工場の中で共有して全体として効果を上げていくとなると、データのやりとりについてはどうか。

A：成形工場に必ずある成形機を中心に情報管理するものが多い。当社機器のデータを有線、無線に関わらず成形機に集める方法と、お客様が独自にホストコンピューターを用意し、当社機器から直接、ないし成形機を介してデータを送るという方法がある。最近、このようなIoT関連の引き合いは増加傾向である。

Q：利益率について、2019年3月期は粗利益率が改善し、2020年3月期予想では更なる改善を計画しているが、その要因は何か。

決算説明会におけるQ&A(質疑応答)

- A: 2019年3月期は、売上高の増加並びに主に材料費を中心とした原価低減及び量産効果により、粗利益率が改善した。2020年3月期予想では、2019年3月期ではさまざまな分野で設備投資が過熱傾向であったが、進行年度では生産、納期面で落ち着きを取り戻し通常のトレンドで推移することから、生産性の効率化により原価低減を図るとともに、適正な販売価格を維持することにより、更なる改善を計画している。
- Q: ローリングされた2019年度版中期経営計画では2019年度が売上のボトムとみているが、その理由は何か。
- A: 足元の受注動向については、国内外での景気の減速感により、設備投資は当面調整局面に入る可能性があると思われるが、自動車関連及び電子部品関連業界は、裾野も広く今後も伸びが期待できる業界であり、設備投資意欲は、どこかのタイミングで好転するものであると判断している。
- Q: 来期に向け売上の減少予想としては、東南アジアと米国は売上のウェイトが高くないので、日本と東アジアが回復しないということかと思うが、牽引役になるのは中国が復活してくるというイメージなのか、日本が一巡して戻るといったイメージなのか、エリア別にみたらどうか。

決算説明会におけるQ&A(質疑応答)

A：構成としては、減少幅が大きいのは中国と考える。日本も減少しているが、日本の触れ幅は少なく、中国の触れ幅のところが大きい。中国は投資意欲が高まった時には一気に投資するという傾向があり、投資意欲が高い場合と低い場合での触れ幅は大きい。

Q：押出成形機のマーケットについて貴社の推測も含めかかれていたが、2020年以降は増加傾向ではあるが、2-3-4年前のレベルは超えてこない。この中身は2-3年前のEVの過熱感がここ2-3年はないということか。また違う理由なのか。

A：自動車EV化が増え、今年世界的にモデルチェンジがない。来年からモデルチェンジは増え、EV車輛が増えることを予想している。自動車を3万台生産する場合、押出成形機の1ラインセットが必要となる。中国では110万台の自動車を出荷計画しているので、来年以降は増加すると考える。

Q：リサイクルプラスチックとバージンプラスチックについて、貴社の機械で違いがあるか。

A：変わらない。

Q：単価は変わるか。貴社の製品の技術的などところの要素でリサイクルが高いので、値段が上げられるということはあるか。

A：それはない。

決算説明会におけるQ&A(質疑応答)

Q：技術が難しいけど、値段は上げられないということか。

A：リサイクルペレットの場合は通常の製品仕様でほぼ使える。フィルムやボトルをリサイクルする場合、粉碎品のハンドリングが難しい。その場合特殊な機械となる。特殊仕様分は価格が上昇する。

リサイクルは、単に粉碎しただけで利用できる場合と更にペレットに加工し利用する場合がある。また、木粉とペレット(再生ペレット含)を高速で混合し、造粒した原料でウッドプラスチック製品に加工している。ベンチ、簡単な過熱で自由に加工できる手摺等がバリアフリー等で採用され話題になっている。これらは今後大きな需要が見込めると考えている。当社はそれらの造粒技術を有している。

(了)

● お問い合わせ先

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。